**校長　　山下　克弘**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 生徒個々の「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、地域社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。１　生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を推進し、「スモールステップで学びを支援」し、「確かな学力」を育成する。２　キャリア教育の充実に努めると共に、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、主体的に進路実現できる生徒を育成する。３　教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力の育成と授業改善　（１）生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。ア　アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。イ　教員相互の授業見学、他校や中学校の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。ウ　国際交流事業、英語検定等を活用し、国際理解教育を推進する。エ　「阿武野プロジェクト（あぶプロ）～学力充実プロジェクト委員会」を中心として、組織的な授業改善を行い、生徒の学力の充実を図る。さらに新学習指導要領を見据え、カリキュラムマネジメントに取り組む。* 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成30年度79％)を上昇させ、2021年度には87％以上にする。
* 平均家庭学習時間を毎年度10分増加させる。
* 外部学力調査の成績上昇者を毎年度10％向上させる。
* ＩＣＴを活用した授業（平成30年度年間4500時間）を増加させ、2021年度も4000時間以上を維持する。

　（２）学習環境の整備、授業規律の確立を図る。　　　ア　学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。２　進路意識の高揚とコース制の充実　（１）進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。　　　ア　総合的な学習の時間(ライフ・プランニング＝ＬＰ)、ＬＨＲ(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実を図る。　　　※　進路決定率(平成30年度83％)を上昇させる。※　学校紹介就職内定率は100％(平成30年度100％)を維持する。※　難関中堅私立大学合格者数を増加させ、2021年度には30名以上にする。　（２）「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。　　　ア　コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実を図り、進路実現に導く。　　　イ　コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成　（１）すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。　　　ア　規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。　　　イ　ＬＰ、ＬＨＲにおいて、アサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。　　　ウ　インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。エ　防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。※　遅刻について、前年度比５％の減少を図る。　（２）生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。その際には、生徒を「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」を意識する。　　　ア　学校行事、生徒会活動の活性化を図る。　イ　部活動の活性化を図る。　　　　　　ウ　一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。　　　　　　※　部活動加入率（平成30年度51％）を上昇させ、2021年度には57％以上にする。４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上　（１）広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。　　　ア　中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。　　　イ　学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。　（２）組織的、継続的に学校力の向上を図る。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［　平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　確かな学力の育成と授業改善 | (１)生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。(２)学習環境の整備、授業規律の確立を図る。 | （１）ア・アクティブ・ラーニング（ＡＬ）、ICTを活用した授業づくりを推進し、生徒の主体的・協働的な授業参加と活動量の増加を図る。　・各授業の目標、ポイントを明示するとともに、授業の振り返りを行う。　・課題・宿題による家庭学習の習慣づけ、確認を行い、授業進行に活用する。・パフォーマンス課題に基づく評価を推進する。イ・教員相互の授業見学の活性化と共に、授業アンケート結果を活用し、授業改善を図る｡　ウ・国際交流事業(ケント高との相互交換留学)や英検受検を通じて英語力と国際感覚を養う。エ・あぶプロの活動を継続し､教材開発､研究授業､研究協議、ICT機器活用及びAL推進のための校内研修を実施すると共に、新学習指導要領実施を見据えたカリキュラムマネジメントの設計に取り組む。（２）ア・学習環境整備、授業準備、授業規律について、各学年団での指導を一貫して行う。　・保健部を中心に全教職員で校内美化を推進。 | （１）ア　イ・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度（79％）より向上させる。・平均家庭学習時間を前年度比10分増加させる。・外部学力調査の成績上昇者を前年度比10％向上させる。　・ICTを使用した授業4000時間以上を維持。ウ・国際交流事業の活性化。エ・阿武プロでカリキュラムマネジメント設計を進める。（２）ア・学校教育自己診断（生徒）における「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度（66％）より向上させる。・同「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定評価を前年度（51％）より向上させる。 |  |
| ２　進路意識の高揚とコース制の充実 | (１)進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。(２)各コースをはじめすべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観､基礎的・汎用的能力を養う｡ | （１）ア・３年間で、ＬＰ、ＬＨＲにおける系統的・継続的なキャリア教育が充実するよう、進路指導部、学年が協力する。　・進路指導部・教務部・学年団が協力して、補習・講習を実施し、進路実現に導く。　・１年次は自尊感情の育成とともに、ＬＰ「素敵な大人インタビュー」等を通して将来の職業生活についての意識を高める。全員の３者面談を実施し、進路決定や職業を意識したコース選択、科目選択を徹底する｡　・２年次は進路体験学習等のキャリア教育、個人面談により、適切な科目選択、卒業後の進路目標の確定に導く。　・３年次は進路別対策講座を実施するとともに、担任・進路によるきめ細かな進路相談を行い、進路希望実現100％をめざす。（２）ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。 | （１）ア・同「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度（86％）より向上させる。・２年生の進路目標確定95％以上。・卒業時進路決定率を前年度（93％）より向上させる。　・学校紹介就職内定率100％。　・難関中堅私立大学合格数15名以上。（２）ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度（84％）より向上させる。イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度（67％）より向上させる。 |  |
| ３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成 | (１)すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。(２)生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するすると共に、自らを律し他人を思いやる心を育てる。 | （１）ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、遅刻、頭髪、制服の指導を強化するとともに、挨拶ができる生徒を育てる。　・生徒一人ひとりが｢阿武野高生の代表｣であるという自覚を持ち､責任ある行動､言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う｡　・カウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。イ・１年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、ＬＰ、ＬＨＲでアサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。ウ・２年次に社会貢献活動｢あぶねっと｣を行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。エ・防災教育を計画的に行う。　・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、定期的な注意喚起を行う。（２）ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。　　イ・部活動の活性化を図る。ウ・各学年、相談室委員会、配慮特別委員会が情報を共有し、ＳＣ(スクールカウンセラー)、ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）、関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を維持する。 | （１）ア・年間延べ遅刻数4000人以下。(H30・3746人)　　・同（教職員）「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度（83％）より向上させる。イウ・同（生徒）「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度（82％）より向上させる。・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度（73％）より向上させる。　エ・防災教育、交通安全教育の各学期実施。　・カッパ所有率100％。（２）ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度（76％）より向上させる。イ・部活動加入率51％→53％。　・生徒会や部活動による地域交流20回以上。ウ・「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援。 |  |
| ４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上 | (１)広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。(２)組織的、継続的に学校力の向上を図る。 | （１）ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。イ・学校紹介スライド、３年間の学び・みえるプラン、広報誌(ＡＢＵＬＩＦＥ)を作成すると共に、校内のデジタルサイネージを推進し、教育活動の効果的な情報発信に努める。・文書、保護者メール、ＨＰ(ホームページ)等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。（２）　・日常的なＯＪＴの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。　・府教育センター等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。　・地域の府立学校とも連携し、多様な課題に対応するための職員研修を計画的に実施する。　・ＯＪＴの充実やＩＣＴの導入によって業務の効率化を進め、ストレスチェック制度の有効活用も行い、教職員の負担感軽減を図る。 | （１）ア・学校説明会等の計画的、組織的実施６回以上。イ・ＨＰをより見やすく改善する。・同（保護者）「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度（73％）より向上させる。（２）　・伝達研修を含む職員研修の実施12回以上。　・同（教職員）「経験の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度（80％）より向上させる。 |  |